

相談室ニュースレター

第2号

2021年 8月発行



「お気軽に、相談を」

総務局相談室長 小岩裕一

2021年もわたしたちはコロナ禍の中で、教会も試練の中にいます。直接会うことができずに、ネット（ライン、フェイスブック、ズームなど）を介しての交わりを継続しています。自宅にいる人や、遠くの人と話すことができ、人間関係が広がりました。しかし、その反面、微妙な行き違いが生じ、人間関係がうまくいかないこともあります。また、ネットを介してのハラスメント行為や、異端・カルト信者との接触の機会が増えています。被害相談も増えている現実があります。

総務局相談室は、教団内での異端・カルト問題、ハラスメント問題、牧会問題の相談を受けています。

相談と言っても、深刻な問題が起こってからでは、解決がむずかしくなります。そもそも、何が問題であるのかもはっきりしないことがほとんどです。「何となくおかしい、ほんとうにこれでよいのか」と感じるその時に、気軽に相談していただければ、何かのお役に立つのではないかと思います。すぐに問題が解決することはむずかしくても、問題を整理したり、一緒に考えたり、また専門家の相談を受けたりすることのお手伝いもできます。何よりも解決のために祈らせていただきます。

守秘義務は守りますので、安心してご相談ください。

目次

巻頭言 「お気軽に、相談を」	1
一人ひとりの幸せのために (ハラスメント相談窓口)	1
異端カルト最新情報 (異端カルト相談窓口)	3
不安の時代・陰謀論 (異端カルト相談窓口)	4



一人ひとりの幸せのために

木村勝志 (ハラスメント相談窓口)

昨年度より、総務局内に「ハラスメント相談窓口」が正式に設置されました。小岩裕一・喜代美、仁科早苗、木村勝志が担当しています。

ハラスメント被害者がSNS等で告白する動きがアメリカで始まり、世界中に波及していった「#MeToo(ミートゥー、私も被害者です)運動」について、ニュース等でご存じのことと思います。ハラスメント(harassment、いやがらせ)とは、「優越した地位や立場を利用したいやがらせ」(広辞苑)のことで、DV、パワーハラスメント、セクシャルハラスメント、モラルハラスメント、アカデミックハラスメント等があります。これらの関係性にみられる特徴は、「権力」と「支配」です。

今や大きな社会問題になっているハラスメントは、一部の特別な人々の間で起こる問題ではありません。「いつ、どこでも、誰にでも」起こり得る問題です。もちろんキリスト教の教団、教会、クリスチャンホームも決して例外ではありません。むしろ、聖書のみことばや信仰を用いた操作や支配が生じやすい環境だと言えるかもしれません。そのため気づきにくく、表面化しにくいという面があることを謙虚に認める必要があります。

(次頁に続く)

一人ひとりの幸せのために (前頁からの続き)

「ホーリネスを大切なメッセージとしてとらえている教団・教派も例外ではありません。ハラスメントは健全な教会建設を妨げ、教会から主の聖なる愛を締め出し、平安を奪います。さらに、教会をカルト化してしまう危険さえあります。ハラスメントには、それほど大きな悪影響を与える力があるのです。健全な教会形成のために、もはや対岸の出来事として、この問題を避けて通ることはできません。私たちが宣べ伝える福音の中核には、人格の尊厳の尊重があります。しかし、ハラスメントは相手の人格の尊厳を尊重しないところから発生するものなのです」(イムマヌエル総合伝道団人権委員会著『聖なる教会をめぐって』)。

教団、教会、家庭が健全であることは、何よりも主ご自身が望んでおられることです。そのためにも、次のチェックリストを是非試してみてください。()には、牧師、教会役員、教会員、伴侶、親、兄弟、友人、恋人等、適宜入れてみてください。

【支配とコントロールのチェックリスト】

- ()の言うことは絶対だ。
- 自分の意見や希望を()に伝えるのに、とても勇気がいる。
- ()がいると、()が帰ってくると緊張する。
- ()を恐れている。
- ()がいる前では電話をしたくない。
- ()を待たせることはできないと思っている。
- 自分がどう感じるかよりも、()が怒らないかが基準になっている。
- 予定より遅く帰るなんてできないと思っている。
- ()の言動に意見できないと思っている。
- たとえ間違っていると思っても、()に同調してしまう。
- ()に自分の本音は言えない。
- ()が怒り出すと、なんとかなだめようとしてしまう。
- ()の機嫌が良い状態であるためには、どんなことでもすると思う。
- どんなに自分が楽しんでいても、()の機嫌が悪くなると、もう楽しむことはできない。
- 自分のほしいものでも、()が良い顔をしなければ買えない。
- 子どもが()の気に入らないことをするとすぐくあせる。

(『傷ついたあなたへーわたしがわたしを大切にすることーDVトラウマからの回復のワークブック』を参考にして作成)

幾つかあてはまる場合は、力の差があり、相手からコントロールされている関係である可能性があります。

ひとりで悩み、黙って我慢しているだけでは、何の解決にもならないばかりか、かえって問題が深刻化したり、第二・第三の被害者が出たりする恐れがあります。どうか勇気を出してご相談ください(奉仕等ですぐ応答できない場合もあります。その際は時間をおいておかけ直しくくださるか、他の担当者におかけください。ショートメッセージやメールでご用件をお伝えくださると、こちらからかけ直すこともできます)。

専門家の助けを仰ぎながら、祈りつつ対応し、秘密は厳守します。

ハラスメント相談窓口

小岩 裕一(和歌山教会、090-9697-1338)、小岩 喜代美(和歌山教会、090-8526-1338)

木村 勝志(芦屋川教会、080-9281-1498)、仁科 早苗(灘教会、080-3004-0247)



異端・カルト最新情報

小岩裕一（異端カルト相談窓口）

最近の異端・カルト相談窓口には、「気になる」程度の相談が増えています。即深刻な状況ではありませんが、「要観察」が必要のケースが多いです。

1、ネットを介しての接触

コロナ禍が続き、教会の集会に出席できない状況で、ネットを介しての説教、聖書研究、信者の交わりが増えました。それは、教会の宣教として上手に活用できます。しかし、その弊害も指摘されています。その一つは、異端・カルトの情報と信者との接触の可能性が、一挙に増大したことです。その際に、ネット上だけでは、既成キリスト教会と見分けることは非常に難しいです。彼らが「既成キリスト教会」になりすましているからです。また、ネット上では、健全な情報が少なく、圧倒的に異端・カルトの情報が多いと言っても過言ではありません。異端・カルトの布教対象は、クリスチャンです。クリスチャンが極端に少ない日本では「私もクリスチャン」と言われるとうれしくなり、それも「優しそうな雰囲気」があれば、ラインやフェイス・ブックで簡単に、「友達」になってしまいます。そこから、ネット上で、異端・カルトの信者に囲まれます。その時は、自分が異端・カルトと接触しているなどとは思ってもいません。この段階で気がつけば、何とか離れることができます。次に「聖書研究」（異端・カルト）に入ってしまうと危険です。教会外での「聖書の学び」は慎重に厳選することです。いとも簡単に異端・カルトの教えが刷り込まれ、既成キリスト教会からは誤解されて、誹謗中傷されていると教えられます。この段階になると、牧師の忠告を聞かず、脱会は相当困難になってしまいます。何とかその前段階で気がつき、早急にカウンセリングを受けることが必要です。

2、ネット上でマインド・コントロールされる

かつては異端・カルトの集会に「入り浸り」になり、マインド・コントロールされるということが主流でした。しかし今は、異端・カルトの信者と直接ほとんど会うことなく、ネットを介してだけで、マインド・コントロールされます。携帯電話、メール、ライン、フェイス・ブック、動画などを駆使すれば、24時間、その人を把握し支配することが容易になっています。異端・カルトの信者とは、たまに会うだけです。教祖的存在とも直接ではなく、ネット上での説教、メールで触れることになります。謎に包まれた教祖として、むしろ崇拜されます。新しい型のマインド・コントロールと言えます。

3、要注意の異端・カルト

【全能神教会】

今年は特に被害報告が多かったです。中国人信者だけでなく、教育された日本人信者がひとりで礼拝に現れ、周囲と親しくして牧師の目が届かないところで全能神のサイトを紹介し近辺のアジトに連れて行き教育しています。また、教会批判を徹底するため元所属教会を分裂させたり、信者に精神的負担をかけてしまう事例が多いです。組織的に教会破壊、引き抜きをします。牧師、役員は注意深く新来者の動きを見守る必要があります。

【タラップン運動】

超教派の実行委員会にもタラップンの牧師が参加しています。タラップンは異端解除されたと、諸教会と関わる時に話していますが、2012年頃に大韓イエス教改革教団がタラップンの教会の牧師を正教師に迎える礼拝を強行。多くの反対を押し切って無理矢理受け入れた直後に改革教団は分裂、現在の韓国の改革教団は80%がタラップンの牧師で占めています。元々の改革教団の牧師は反対して教団を離脱しました。ヤドカリのように正統教会を「宿」にしてそこに入り込んでいきます。韓国ホーリネス、メソジストなどは今も異端規定のままです。

【グッドニュース宣教会＝救援派】

相変わらず案内を続けています。アポなし訪問も盛んです。何も知らない牧師は彼らを歓迎してしまいます。記念写真を撮ることもあるようです。WEBサイトで写真などが利用される可能性があります。教会に訪問した場合は深く関わらないように注意してください。

【キリスト教福音宣教会】（摂理）

教祖（自称再臨のキリスト）鄭明析は出所後、活動を開始し、日本にはネットで説教動画を配信しています（非公開）。大学近くには、摂理信者がシェアハウスなどで共同生活し、布教拠点にしています。大学間を超えて布教しています。「教会」（200-500名規模）が設立され、既成キリスト教会と見えるように、ネットでは公開しています。現在、大学や高校に入るカルトとしては最大の集団です。布教方法は、音楽、芸術、スポーツなどのダミーサークルを活用します。かつての統一協会のような強引さや「宗教臭さ」を感じさせません。親御さ

んが気がつかずに、ほとんどの場合発覚しないので深刻です。

【その他・キリスト教系ミニ・カルト】

ミニ・カルトとは、数人から100名程度です。教祖、拠点、教理などが公開されず、謎です。ある人から勧められたり、自分で検索して見つける場合もあります。家族は「何か怪しいものを見ているのかな」という程度です。周囲の人がそのうち飽きるだろうと思っても、逆にハマってしまう場合もあります。神、キリスト、聖書、という言葉が出てきます。特に悪魔が頻繁に出てきます。キリスト教異端というよりも、ニューエイジ思想です。また、いわゆる「陰謀論」「終末論」が出てきます。ほとんどがシンクレティズム（宗教混合）です。宗教面だけではなく、心理的、精神的な混乱も生じる場合もあります。

なお、中国系・韓国系異端情報は、『異端・カルト110番』が信頼性と精度が高いので参考にしてください。また、同サイトのご支援もよろしくお願いいたします。



不安の時代・陰謀論

小泉 創（異端カルト相談窓口）

2021年1月、死者5人を出したアメリカ合衆国議会議事堂襲撃事件は、トランプ元大統領を信奉する人々によって引き起こされました。彼らの多くは、ネット上の掲示板で拡がった「Qアノン」という陰謀論を信じていました。トランプ元大統領は世界を牛耳る「ディープ・ステート（影の政府）」という悪魔崇拝者と戦い、人身売買される子供たちを守るための極秘の作戦を実行しているというのです。トランプ元大統領を不正選挙で引きずりおろそうとする働きを阻止するために、信奉者たちは議事堂に押し寄せ事件が起きました。このようなストーリーを信じる人たちはアメリカだけでなく、日本でも相当数いるといわれています。

長引くコロナ禍で先が見えず、誰しもが何らかのストレス、不安や恐れ、孤独を感じています。政府や政治家に対する不満、不信感も募る中で、複雑な出来事を明快に解き明かす言葉が多くの人々の心をとらえています。それら「陰謀論」はある出来事、事件に対する一般的に知られているのとは違うストーリーを主張します。さらにすべての出来事を背後で操る人物・団体があり、その存在が世界をコントロールしていると言うのです。「陰謀論」は今までも形を変えて存在していましたが、日本では東日本大震災以降、力をもってきたともいわれます。原発事故と放射能の影響に対して情報が入り乱れ、科学や政府に対する不信感が増し、スマホの普及によって同じ思想を持つもの同士がつながりやすくなったからです。さらにグローバル社会による格差問題、得体のしれない権力集中が、不安を駆り立てるのでしょう。最初は好奇心から触れて、次第にのめりこんでいきます。

コロナ禍で聖書の終末論を教えるサイト・動画も増えましたが、聖書の専門家がQアノンのような陰謀論の情報を教えているものもあります。裏情報を交えて独自の世界観を語り、これから起こることをまことしやかに教えたり、終末の切迫感を強調して多額の献金や、不健全な生き方を促したりします。このようなやり方は今まで多くの異端・カルト団体がしてきたことにも通じています。

他には「コロナウィルスは存在しない」、「ワクチン接種の背後には悪魔的な陰謀がある」という情報もネットにはあふれています。これも一般的に知られているのとは違うストーリーを主張するものです。確かに一般のマスコミでは取り上げない大切な情報や指摘もないわけではありませんが、その一方で根拠が乏しかったり、科学的な理解が欠落していたりするものも少なくありません。情報をうのみにせず冷静に検証する必要があります。

「陰謀論」に入り込むと、家族をはじめさまざまな人間関係で分断が生じます。自分は世界の真の姿を知っているが、他の者たちは目覚めていない、というように思いこみ、互いに自分は正しくて相手が間違っていると考えるので対話ができなくなるのです。愛し合うことを妨げ、分断をもたらす教えには用心する必要があります。キリストを信じる私たちは不安の時代にあっても、耳ざわりのよい偽りの教えではなく真実を求め、主にある平安をいただきつつ、考えが違う者同士が互いに向き合っていける知恵を主からいただきたいのです。

「あの空しいだましごとの哲学によって、だれかの捕らわれの身にならないように、注意しなさい。」（コロサイ2：8）